

令和6年度 学校評価

自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立坂戸小学校
実施日	令和7年1月10日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価」についての評価の説明及び学校の考えの欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、「笑顔いっぱい 学びいっぱい みんなの学校坂戸小」を目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	・教職員全体で、組織的・計画的に取り組んでいる。 ・定期的に実践の振り返りを行うことで、よりよい教育活動となるよう、課題とその解決に向けて進んでいる。 ・年度当初に研修時間をしっかりと確保し、目指す学校像について教職員同士が共通理解することができた。	A	・適切に情報発信を行っている。 ・校内研修の実践や学校行事等の活動を通して、積極的な取り組みが図られ、成果も出ていると思われる。 ・全先生方で共通理解を図り、元氣な学校を維持してほしい。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに對して、組織的に迅速に対応している。	A	・事故やトラブル等に対しては管理職を中心とし、組織的に対応している。職員は、日頃から報告・連絡・相談を行うことができている。 ・緊急事態が発生した都度、全教職員で情報共有をする場を設定し、成果や課題を活かすようにしている。	A	・情報の更新・共有を引き続きお願いしたい。 ・教職員による自己評価の内容を見ると情報の共有や訓練も行っていることであるが、危機管理の対策を共有していただきたい。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	B	・定期的に働き方改革の会議を実施し、全教職員で効率の良い勤務について改善を図っている。確実に減少している。 ・職員一人一人が働き方改革を意識している。	B	・ノー残業デーなど大変改善されていると思います。負担が偏らないよう計画をして、よりよい職場にしてほしい。 ・改善に取り組みされている様子を感じている。配慮がされていると共に意識も高まっている。 ・引き落としにするなど、集金の在り方も検討してほしい。
	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。(市共通項目)	B	・教職員の授業力向上のために、互いの授業を見合う授業研究を毎月実施することができた。 ・子供が夢中になって学習に取り組みめるよう、今後も教科の特性を生かした授業づくりを推進し、児童の学習意欲を高めたい必要がある。	A	・授業の様子等見させていたたい限りの限り、よく取り組まれていると思われる。今後、更に期待している。 ・坂戸ろう学園との交流では、児童同士の理解を深める授業を実施し、配慮や工夫を加えて教育活動を実施できた。 ・改善すべき点は検討し、結果についても議論したい。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・道徳の授業や人権感覚育成プログラムの活用等を計画的に行い、豊かな心を育むようにしている。 ・いじめ撲滅月間等の取り組みを全校全体で推進している。また、生徒指導委員会等に、児童の情報共有や支援の方向性について協議している。	B	・よく取り組んでいる。 ・子供たちの活動を見る限り、心が育っていることを感じている。 ・児童も教員も多様性を認めることができるような授業を展開してほしい。
	6	児童生徒は、時と場に応じた態度をとることができ、意欲的に学校生活を送っている。	B	・教職員が児童の手本となつて、挨拶や言葉遣い、時間を守ることなどを声を掛け合い、推進している。 ・児童の挨拶は少しずつ増えているものの、元氣にできる子は少ない。 ・授業中は落ち着いて学習できている。	B	・児童の挨拶・態度は家庭環境が大きいと思います。大変ですが、定期的に朝の挨拶運動など、校内も含めて検討をお願いします。 ・目標を変えた取り組みもよい。継続が大切と思われる。 ・児童の挨拶は大人の鏡だと思う。
教育課程・学習	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のための研修や活動に積極的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・定期的に関連情報や懲戒処分などについて共有しており、少人数で協議できる時間も確保することで自分事として捉えられるようにしている。 ・今後も教職員同士が声を掛け合い、不祥事を他人事とせず、誰にでも起こりうることと想定していき。	A	・色々な問題があり大変だと思います。引き続き、研修等のご対応をお願いします。 ・今後も倫理確立委員会。会を開催し、風通しのよい職場づくりに努めてください。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にしている。(市共通項目)	B	・全ての子が「笑顔いっぱい」で学ぶことができるよう、多くの教職員が連携して指導を行い、子供や家庭の事情に寄り添った支援を心掛けている。 ・仲良しアンケートを定期的に実施し、困りごとの解決を家庭と連携して行っている。	B	・全体的に温かい雰囲気です。教員の方々は児童にもPTAにも優しく接して頂いています。 ・少子化の現在、縦割り活動は大変貴重な体験だと思う。 ・保護者アンケートからも先生方への感謝の言葉が多く寄せられています。
	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。(市共通項目)	B	・外部指導者を招聘した研修会を実施し、全教職員が共通理解のもと特別支援体制の充実を推進している。 ・本人や家庭の希望を確認しながら校内通級を実施する等、児童の実態に即した支援ができるよう、学校全体で取り組んでいる。	B	・交流学級は充実されていると思います。支援員さんの勤務時間が少ないようなので、要検討をお願いします。 ・よく指導されていると思う。 ・特別支援教育体制の充実が目標に示されていたため、担当者同士の連絡の際にも積極性が感じられた。
学習環境	10	学校は、安心安全で機能的な学習環境整備に努めている。	A	・安全点検が環境整備に活かせるよう、PDCAサイクルを再確認し、確実に活用している。 ・施設の老朽化が著しい部分もあるが、教育委員会と連携し、児童が安全に安心して通えるよう積極的に修繕を実施している。	A	・安全点検に不満の意見が多く見られました。システムの改善をお願いします。 ・環境を整えることは危険を遠ざけることにも通じ、何より清潔な環境は児童の心を落ち着かせるのではないのでしょうか。
	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	B	・メールの活用により、防犯や学級閉鎖、学校応援団の募集等、迅速に情報を家庭に提供することができた。 ・今後も学校だよりや学校ホームページ等を適切に活用し、学校での児童の様子等を家庭・地域に提供し、開かれた学校づくりをさらに推進していきたい。	B	・定期的にHPを更新してほしい。地域からも学校便りを楽しみにしているという声を聞いている。回覧はありがたい。 ・引き続きホームページな学校でありたい。 ・学校便りにより、児童の生活の様子を知ることができる、重要なツールであると考えます。
家庭・地域との連携	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	・学校応援団や地域の方には、多くの活動で支援をいただきました。様々な地域人材に協力をいただくため、今後も活動内容や募集を発信していく。 ・多くの授業において地域の人材をゲストティーチャーとして活用できたが、今後は人材バンク等を活用したい。	B	・地域の人材を活用するのは、少し難しいのかなと思います。地域の行事を学校で伝え、参加させるのはいいかがでしょうか。 ・地域人材の活用は難しい。原口先生をはじめ、継続した交流は、とても素晴らしい。 ・民生委員との情報交換が定期的に行われている。
	13	学校は、小中一貫教育の視点にたつた教育活動を推進している。	B	・今年度は小中連絡会や中学校体験入学などを実施した。互いの教職員が児童生徒の様子を知るだけでなく、課題や成果についても共有できた。 ・中学校へ進学して困らないよう、小学校でできる準備をしておきたい。中学校と具体的な情報交換を行い、変化に対応できる児童の育成を目指す。	B	・よく取り組んでいる。 ・地理的な難しさがあ。学習のルールや生徒指導にて共通理解や実践が進むとよい。 ・6年生が坂戸中の合唱祭を見学に行く取組は、小中どちらにとってもいい経験になっていると思う。